

平成30年度 第1回 長野市商工振興・雇用促進審議会 概要

【日時】平成30年8月28日（火） 午後2時00分から午後4時00まで

【場所】長野市役所第二庁舎10階 会議室203

【出席者】委員14名（1名欠席）、事務局8名

【傍聴者】1名

【報道関係者】2名

- 1 開会
- 2 委員委嘱
- 3 商工観光部長挨拶
- 4 審議会委員の紹介
- 5 事務局職員の紹介
- 6 会長及び副会長の選出

会長には、長野商工会議所会頭の北村委員が、副会長には、信州大学工学部学部長の天野委員が選出された。

- 7 議事（議長：北村会長）

- (1) 長野市商工業振興・雇用促進計画の概要について

「長野市商工業振興・雇用促進計画」により事務局から説明

- (2) 長野市商工業振興・雇用促進計画の進捗状況について

資料「長野市商工業振興・雇用促進計画 事業管理シート～平成29年度分～」

により事務局から説明

【質疑等】

会 長：計画の概要、計画の取組と実績、今後の方針について事務局から説明があった。計画の内容、今後の取組等について意見ををお願いしたい。

A委員：資料2ページの「起業・創業への取組の推進」の指標の数値が上がってきている。他の市町村でも同様の取組をしているが、他市町村と比べて、この数値は多いのか、少ないのか。

事務局：起業・創業の関係については、多くの自治体で支援していることは承知しているが、その実績は把握していない。

A委員：資料3ページの「実践起業塾」の受講者数等について、受講者数と比べて起業者数が少ないが、今後の取組方針はどうか。

事務局：実践起業塾は、受講した当該年度に起業する人と、受講後いろいろな勉強をしてその後に起業する人がおり、受講と起業にタイムラグがある場合がある。講座を受けてから途切れないように、フォローしていきたい。

A委員：資料4ページの「産学官連携・ものづくり産業等活性化支援事業」の課題として、補助金を利用する企業が固定化される傾向にあるようだ

が、今後の取組方針として、広報だけではなく、企業に出向いて説明することも必要ではないか。

事務局：産学行連携支援施設U F O長野にインキュベーションマネージャーがおり、その職員が企業を訪問して説明をしている。そのような場面を活用しながら、今後周知を図っていききたい。

会 長：長野商工会議所の中小企業相談所では、それぞれの企業と相談等のやり取りをする中で、資金面の話をしている。企業に出向いて、補助金等を積極的に取り入れられるようにサポートをしている。

A委員：資料5ページの「長野市物産振興事業」の課題についても、マスコミ等を通じて広げていくことが必要ではないか。

事務局：長野市の観光と物産展実行委員会の現在の会員は72事業者だが、イベント等に出店する事業者数社が固定化してきているので、事務局で、会員にどんな形で今後の事業に参加したいか等のアンケートを実施したところ、10数社が新たに事業に参加することになった。声掛けをして、参加事業者を増やしていききたい。

A委員：資料8ページの「就職情報サイト「おしごとながの」」は役立っている感じだが、サイトに掲載する企業の開拓・求人等の取扱いについて、ハローワークとの連携が必要ではないか。

事務局：「おしごとながの」の掲載企業の開拓等については、ハローワーク等にチラシを置いたり、就職説明会に参加する企業に案内する等PRしている。今後、掲載企業を増やしていききたい。

A委員：資料8ページの「U J I ターン就職促進事業」は、東京が中心になっているが、他の都市部、大阪や名古屋にも広げてはどうか。

事務局：U J I ターン就職促進事業は、商工労働課の事業としては東京圏が中心だが、人口増推進の観点で、大阪等で開催する移住促進の説明会等で「おしごとながの」や企業ガイド等によりPRしている。今後、実施地域は検討していききたい。

A委員：資料9ページの「長野地域見学ツアー」は、参加者が学生か、保護者か、先生か。仮に学生だけなら、未成年も多いので保護者や先生にも見学してもらってはどうか。今は人手不足なので、見学ツアーの中身を考えることが必要ではないか。

事務局：長野地域見学ツアーは、学生が対象。平成28・29年度に実施しているが、企業が限られることもあるので、今年度は実施しない予定。インターンシップの説明会に重点を置いており、学生にインターンシップを体験し、知ってもらおうということで、ツアーは実施していない。

会 長：ほかに意見のある方はお願いしたい。

B委員：まちづくりという観点から、中心市街地の電線地中化や交通網再編等については、予算枠として別に検討しているのか。

事務局：中心市街地で電線の地中化等に取り組んでいるが、都市整備の分野なので、都市整備部で計画と予算立てをしている。

- 会長：ほかに意見のある方はお願いしたい。
- C委員：信州大学工学部の学生は85%が他県から来ているので、その学生を取り込めると良いのではないか。工学部の学生は、インターンシップへの参加があまり多くない。大学の就職支援センターと連携ができれば良いのではないか。都会の私立大学等の学生が信州大学の大学院を受験すると、こちらで就職しやすくなる。PRの場で、信州大学の大学院を受けてもらえるように一緒にPRをしてもらえるとう良いのではないか。
- 事務局：これまでは首都圏の大学生のUJIターンに主眼を置いてきているが、地元の大学生の7～8割が県外からで、学生生活を長野で送った結果、長野の印象が良く、長野で就職したいという学生もいるので、ここにいる学生を取り込むことにも力を入れていきたい。大学院の受験に関しても東京でPRしたい。
- B委員：信州大学に経営大学院があるのに、あまり知られていない。
- C委員：工学部と経済学部で連携しているが、PR不足等があり、あまり知られていない。
- D委員：首都圏の大学に進学したが、大学院が信州大学というのは非常に良い。業界でも、人材確保で何かの対策がとれないかということがある。具体的にどうしたら良いか。例えば、長野県出身者の入学基準を変更すること等はできないのか。
- C委員：まずはPR。高校の先生が大学生と連絡をとっている場合があるので、信州大学の大学院に進学したいと相談があった時に、私立に比べると学費は安く、都心と比べると生活費も安いメリットがあるので、PRをできないかと考えている。
- D委員：この地域の高度人材の確保には効果的。信州大学の大学院の特色の一つとして、この地域の学生を優遇するような施策はとれないか。
- C委員：信州大学は国立大学で、地域の学生を優遇することは難しい面がある。地域枠は、地域の医師確保という特殊事情から医学部のみに認められており、他学部は認められていない。
- D委員：行政等の機関の推薦状があればどうか。
- C委員：入学する前の対策が良いのではないか。
- D委員：行政もぜひ考えて欲しい。それから、もう1つ。他県から進学した大学生が、この地域から離れて就業するのではなく、この地域に残る率を上げていきたいのが地元企業の想い。インターンに行っても、ここに残る率はあまり高くないが、この地域で好きな男性や女性ができると残る率が高い。もう少し大きく考えると、学生がこの地域の人と触れ合う機会が少ないのではないか。インターンシップに行った先で、新たな人間関係ができて、それがこの地域の魅力につながったという話はあまり聞いたことがない。信州大学の場合、学生は、松本キャンパスから長野キャンパスへ来るが、松本のキャンパス時にアルバイト

をした松本の居酒屋が長野にもあり、仕事に慣れているし、居酒屋としてもレクチャー等をして分かっているの、ぜひ長野の店舗で同じアルバイトをやらないかという話がある。そうすると、良い人間関係ができていく。その居酒屋の社長は、就職のところで、地域の企業と連携できないかと相談に来た。今後検討していくが、地域の人間と触れ合うことで、「この地域が好き」、「この地域に残りたい」というエネルギーが出てくるのではないかと。

E 委員：今の話は、長野で生きて働く価値の話ではないか。長野県立大学は、信州大学のように直近の卒業生がおらず、1年生しかいないが、県立大学が力を入れていることは、価値をつくること。ソーシャル・イノベーション創出センターでは、イノベーション創出なので、価値をつくる、つくり出すという視点を強力に学生たちにアドバイスしている。価値をつくる、つくり出すという視点をこの計画の5年間に取り入れると、もう少し具体的になっていくのではないかと。様々な施策を積み重ね、KPIを上向きに尽力しているのは分かるが、数字だけを追っていくと、価値は数字で表せないのを見失ってしまう。数字としての整理も必要だが、長野市で暮らしていく価値、ここで働く価値をつくり出すことを重視すると、今の議論の切り口が見えてくるのではないかと。県立大学の企(起)業家コース希望の学生と相談している中で出てくるのは、暮らし方、生き方の話で、その延長に働くことがあるので、給料・福利厚生のこと以上に、自分がそこで何を実現できるかが重要。先程の彼氏・彼女ができるのは人生の価値の話。若者はそこを見ているので、そういった捉え方を入れると、商工振興にしる、雇用促進にしる、21世紀の若者に響くようになる。また提案だが、SDGs(持続可能な開発目標)の切り口を意識して進めていくことはどうか。県立大学は、そのコンソーシアムの一員であり、国もかなりアクセルを踏んでいる。SDGsの切り口は17個もあり、どこからでも入れるので、その切り口を取り入れると、計画の完成年度に先行きが違ってくるのではないかと。今後検討して欲しい。

会 長：長野県では積極的にSDGsに取り組むようだが、市町村ではあまり聞かない。また確認して欲しい。他にもご意見があれば、ぜひ事務局に話していただき、事務局から回答をお願いしたい。

8 その他

事務局：次回の審議会は、来年の春頃に、今年度(平成30年度)の各事業の実績等について審議するため開催する予定としたい。

9 閉 会